

---

 学 会 記 事
 

---

## 第19回新潟高血圧談話会

日 時 平成7年5月19日(金)  
午後6時  
場 所 新潟大学有壬記念館  
2階大ホール

## I. 一般演題

## 1) 多剤併用により腎機能の改善がみられた悪性高血圧症の1例

成田 一衛・中川 洋一  
上野 光博・西 慎一  
鈴木 亨・荒川 正昭(新潟大学第二内科)

悪性高血圧に合併する腎障害は、患者の QOL を含めた予後を左右する因子として重要である。また、腎臓は高血圧自体の発症、持続および増悪に重要な役割を演じていると考えられている。

私たちは、腎機能障害を有する悪性高血圧症例を経験し、多剤併用により降圧し、同時に腎機能の改善を得たので呈示する。

患者は32歳、男性。既往歴に特記すべきことはなく、検診でも高血圧を指摘されたことはなかった。昭和57年、鼻出血を初発症状として高血圧が発症し、降圧薬を内服していた。昭和62年7月頃、夜間尿、多飲などの症状が出現し、腎機能低下をみとめたため、当科に紹介され入院した。入院時、血圧 170/100 mmHg、胸腹部異常なく、浮腫なし。眼底に綿花様白斑と出血斑をみとめた。Cr 2.7 mg/dl, BUN 35 mg/dl, GFR 31.9 ml/min と腎機能低下があり、尿蛋白は 2.2 g/day であった。血漿レニン活性は 5.2 ng/ml/hr, アルドステロン濃度は 17.0 pg/ml であった。ニフェジピン、メチルドーパ、エナラプリル、フロセミド、を使用した十分な降圧が得られず、さらにレセルピン・ヒドララジンとブナゾシンを併用して十分な降圧を得た。降圧に平行して、腎機能は改善し、Cr は一時 3.5 mg/dl まで上昇したが、退院時 2.0 mg/dl まで低下した。腎生検では、小、細動脈の内膜肥厚と硬化および糸球体の虚血性変化をみとめた。腎機能低下を伴う悪性高血圧に降圧療法をおこなう場合、腎機能が一時的に低下する例もみられ、しばしば透析療

法を必要とすることもある。しかし、本症例でみられるように、いわゆる緊急性のある悪性高血圧を除くと、段階的に降圧薬を増量または変更しながら徐々に降圧をはかることによって急激な腎血流量の低下を防止し、かつ腎機能の改善を期待しうる。症例ごとに降圧薬のきめ細かな調節を行い、血圧および腎機能の変動に十分注意して治療を行うことが重要である。

2) 腎機能は血圧の低下処置で改善するか：  
Accelerated hypertension 例を中心に

浜 斉・太田 隆志(木戸病院内科)

長期観察しえた Accelerated hypertension 例と Malignant hypertension 例での降圧状態と腎機能変化との関係を示した。

Accelerated hypertension の1例は41才の男性で、初診時、血圧 210/154 mmHg; 眼底所見: KW Ⅲ度, CTR: 51.6%; 心電図: 左室肥大; 心エコー: 心室中隔厚 1.7 cm, 左室後壁厚 1.6 cm; 尿蛋白 (+); GFR 52 ml/分; BUN 36.0 尿酸 10.4, クレアチニン 2.9 mg/dl; PRA 9.40 ng/ml/h, PAC 22.8 ng/dl, AII 43.0 pg/ml. Furosemide 40 mg, propranolol 30 mg, Enalapril 5 mg/日の併用により、血圧は 134~150/80~100 mmHg と下降し、血清クレアチニンも 2.2 mg/dl と低下し腎機能の改善をみた。しかし、この症例は治療中断を反復したため、10年後に透析導入となった。

Malignant hypertension の1例は36才の男性で、左眼の視力障害で眼科を受診し血圧 240/140 mmHg 眼底 KW Ⅳ度で当科を紹介された。当科初診時、血圧: 216/144 mmHg; 眼底: KW Ⅳ度; CTR: 51%; 心電図: 洞性頻脈のみ; 尿蛋白 1.3~2.8 g/日; GFR 64 ml/分; BUN 14.4, 尿酸 7.8, クレアチニン 1.5 mg/dl; PRA 4.27 ng/ml/h. Propranolol 40 mg と Captopril 50 mg/日の併用により血圧は 130~140/80~90 mmHg と下降し、その後9年間血圧は同程度に維持された。血清クレアチニンも 1.7 から 1.4 mg/dl と軽度低下し、現在もこの値を維持している。

この2症例の経過から、腎機能は血圧の十分な低下処置により改善し、血圧の低下処置が不十分な場合は、長期的には腎機能の悪化がもたらされることが示された。

腎機能低下例で、Captopril と Nifedipine との間に腎保護作用上差がないとした Zuccheli の成績を紹介した。